

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価と今後の課題と改善策
1 授業改善を進めて、基礎・基本の定着を図る。	① 教材や指導方法を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	教務課 各教科	授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	各教科で研究授業を行い、DVDの視聴等で反省会を開く（現在3回）。また、成績不良者に考査前に補習を行う。“教員が分かりやすい授業を心がけている”と思う生徒が80%を超えているが、“学習内容の理解が出来ている”という生徒は66%と低くなっている。授業の始めに本時の目標や流れを明示し、ポイントを絞った授業に努める。単元の終り等に小テストを行ったり、感想を書かせたりして振り返りを行う。 評価C
	② 基本的な授業態度の徹底を図り、生徒が集中し、主体的に学習に取り組むようにさせる。	教務課 各教科	授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	「準備してベル着」「私語はしない」「正しい姿勢で座ろう」という目標を教室掲示し徹底を図る。グループ学習や、自分の考えや意見を発表する場を設けて、生徒が主体の学習を行う。“考える時間や発言の機会がある”と“授業に意欲的に取り組んでいる”が約70%であった。就業のため、授業に集中できない生徒や、一生懸命だが、成績に結びついていない生徒がいる。生徒一人一人、きめ細やかに根気強く指導し、学習習慣を身に付けさせたい。 評価C
2 学校生活全般を通じて、コミュニケーション能力・自己表現力の向上を図る。	① 生徒会役員による生徒会だよりの発行、挨拶運動等を通して、生徒間のコミュニケーション能力の向上を図る。	生徒指導課	生徒会役員が主体となって行う活動が、 A 年間15回以上行われた。 B 年間10回以上行われた。 C 年間6回以上行われた。 D 年間5回以下行われた。	生徒会だよりは4回、挨拶運動は6月（4回）、7月（3回）9月（5回）行った。4年生主体だった前期生徒会役員が任期を終え、後期生徒会役員は、2・3年生主体の未経験のメンバーとなった。11月には、城北祭（学校祭）、12月・3月には校内球技大会、2月には送別ボウリング大会と大きな生徒会行事が控えているので、生徒会役員の主体的な活動となるよう支援していきたい。
	② 教職員の生徒理解やコミュニケーション能力の向上を図るとともに生徒指導の円滑化を目指す。	生徒指導課	生徒理解のための情報交換会やコミュニケーション関連の校内研修会を A 年間15回以上開催した。 B 年間10回以上開催した。 C 年間6回以上開催した。 D 年間5回以下開催した。	生徒理解・いじめ問題対策チームについての校内研修会、いじめ問題や気になる生徒についての情報交換会を合計7回開催した。特にいじめ問題や気になる生徒の情報交換会では、該当する生徒の様子を全職員で共有することができ、生徒理解のための有意義なものになっている。また、指導の方法についても全職員で共通理解しながら取り組んでいる。

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	中間評価と今後の課題と改善策
3 キャリア教育を推進し、個々の進路実現を目指す。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路指導課	現在、就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が A 80%以上である B 60%以上である C 40%以上である D 40%未満である	就業していなかった16名の生徒で、アルバイトに就いた生徒は5名、インターンシップに取り組んだ生徒は2名で、7/16=44%であった。 新たな取り組みとして、企業見学（参加者11名）を行った。生徒は、地元企業の理解を深めるとともに、就業への意欲・関心を高め、職種ごとに就業の際の留意点を学んだ。 アルバイト時の面接で、コミュニケーション能力が不足している生徒が存在するので、指導を丁寧に行っていきたい。 評価 C
	② 教育振興会会員と学校の繋がりを強め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	総務課	就職・就業体験を受け入れてもらった会員企業が A 7社以上である B 5社以上である C 3社以上である D 2社以下である	教育振興会総会の案内にあわせインターンシップ受入の可否を調査したところ、4つの企業および七尾市、中能登町から受入可能との返事をいただいた。これまでインターンシップを実施したことのある企業を含め、8つの職場から選択しインターンシップを実施することができた。 評価A
4 基本的な生活習慣の確立に努め、心身ともに健康な体をつくる。	① 欠席・遅刻・早退を減らすために、生徒・保護者へのはたらきかけや、雇用主への協力依頼を行う。	生徒指導課 各担任	前年度に比べて、意識的に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	欠席、遅刻、早退が多い生徒について、関係職員で協力して指導にあたっている。また、保護者への連絡、雇用主への協力依頼なども必要に応じて行っている。指導を行った生徒については、改善傾向は見られるが、引き続き粘り強い指導が必要である。 また、今年度新たに取り組んだ生活日誌を参考に、生活習慣が乱れている生徒について、改善にむけた個別指導を行っている。 生徒への意識調査については、1月にアンケートを行う予定である。
	② ストレスマネジメント教育を継続し、ストレスへの対処能力の向上をめざす。	保健厚生課 教務課 各担任	学校が楽しいと感じている生徒の割合が、 A 70%以上である B 55%以上である C 40%以上である D 40%未満である	生活習慣に関する調査の結果によると、学校が楽しいと感じている生徒は56%だった。その理由として多く挙げられているのは「友達との人間関係が良かった(10人)」、「先生との人間関係が良かった(7人)」だった。学校が楽しいか否かは、校内の人間関係が大きく関わっていることが推測できる。一昨年度から取り組んでいるストレスマネジメント教育が、良好な人間関係を維持するスキルの向上につながるよう、指導を工夫する必要がある。 評価 B

